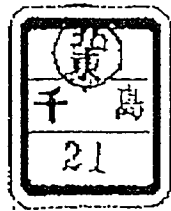




北千島回顧別所二部手記藏



複製史料

防衛研修所戦史室

は約五〇名あり従業員との約五〇名の平慰
 商業会社としてとりおのり最も急がれ居り

宇輝（会社経営）の返還あり獨航船あり

トシ級）に小一早急実施する計田が定む

北 次は陸軍所屬獨航船（沿岸輸送用）乗組

員ととも会社から徴用したも）を始や一

切り小形船を動員して残従業員を帰還が計画

せられたが細回りの許可がとれず 会社幹部の

うちにも 投降後 帰還と製品輸送を図る之

と主張するも あり一致しなかつた 各

逆攻業務者、相集結が命令、野田へ送られた

があまり実行を止められた 遠く指揮系統不

すでに船は難められた

次に 定住組合員は全員エトロー クナシ

りまはけ本道退避と決り 八月十八日午に

流小崎集結逆船二隻に分乗する手はずを

ゆえに

防艦二隻 二隻 札幌船一

二隻（級）隊乗船）片側根拠地から出港した